

川崎市立南生田小学校 学校だより 第3号

南いくた

令和6（2024）年5月30日（木）発行

【学校教育目標】心豊かで自らよく学び
たくましく活躍できる子どもの育成

南生田小学校校長

羽深 東

子ども力

3月、昨年度の6年生の卒業が迫っていました。当時の5年生（今の6年生）は、卒業式の練習に参加している時の様子や、その時の思いを書いた感想用紙から、まもなく自分たちが南生田小学校の最高学年になるという現実、戸惑いや不安な気持ちをもっていることが感じられました。委員会活動などでは、これまで6年生についていき指示を仰ぐ立場だった自分たちが、全校を引っ張っていく立場に変わることへの不安を多く耳にしました。実は私はその5年生の様子を見て、4月からの活躍が楽しみになったのです。不安があるということは、これから自分たちが出会うさまざまな課題について、真剣に考えるだろうと思ったからです。この真剣さがあれば、素晴らしい最高学年になると思いました。

先日、6年生のあるクラスが校長室にやってきました。30人以上の子どもたちが一度に校長室に入ることはめったにありません。校長室が活気あふれる教室になりました。ふと、学級担任をしていた時の感覚がよみがえってきて、「子どもが学習にのめりこむ空気感っていいものだな。」と思いました。1年生が生活科の学習で予定している学校探検が楽しくなるための一環として、6年生が学校のいたる所に装飾を施すということでした。その場所の一つが校長室だったのです。グループで真剣にアイデアを出し合う様子から、「1年生のために」という思いが伝わってきました。最高学年としての自覚とやる気がうかがえて、嬉しくなりました。きっと1年生には、「学校は楽しいところだよ。」という6年生のメッセージが伝わるのではないかと思います。

子どもは、大人になるにつれて多くのことを経験し、目の前の課題を上手に乗り越えていけるようになっていきます。難しいと思う課題には、人の手を借りたり手を抜いたりしながら…。できそうにないと思ったら、やる前からあきらめる時もあります。これは否定しているわけではありません。それができるから、うまく生きていけるのだと思います。でも、子どもたちはそんなに器用に物事には立ち向かえません。今まさに、多くの経験を重ねて学んでいる真っ只中だからです。子どもたちには多くの引き出しはありません。だからこそ課題に対して真正面に向き合います。思い通りにはいかずにつまずいてしまうこともたくさんあります。上手くできている時は目を輝かせながら、できない時は大声で泣いて。

「子どもから元気をもらう。」という大人の言葉をよく聞きます。私もそうです。生きるテクニックなど無くても、もっている力を精いっぱい使って、ひたむきに立ち向かう子どもたちの姿や真剣なまなざしを見ると、私は涙が出てきます。そして、自分もがんばらなければと思うのです。子どもは、見守り導いてくれる大人がいるから成長できます。そして大人も、子どもの純真な姿から、さらに先へと成長しようとする原動力が生まれるのだと思います。南生田小学校の子どもたちと過ごし、そんなことをより一層深く感じるようになりました。